



4月に企業会計基準委員会（ASBJ）の委員長を拝命いたしました。私が委員長に就任することは、1年前であれば、誰にも想像できなかったことであろうと思います。昨年11月に小賀坂前委員長が急逝され、状況は大きく変わりました。

3年前、小賀坂前委員長が委員長、私が副委員長に就任し、二人三脚でASBJの運営をしてまいりました。その中で、日常の業務についてだけではなく、目まぐるしく変化する環境に柔軟に対応できる、持続可能な会計基準設定主体のあり方についても沢山議論をいたしました。それらの議論の内容を活かしながら、短期的な視点と長期的な視点の両方の視点をもってASBJの運営をしていきたいと考えております。

ASBJの業務は、わが国の会計基準を開発することと、国際的な会計基準の開発に貢献することとに分けられますが、それぞれで大きな変更を行うことは考えておりません。

わが国の会計基準の開発については、これまで同様、国際的な会計基準と遜色ないものであるとの国内外の評価が得られる範囲で、わが国の企業の実務を考慮した会計基準の開発を行うことを考えております。また、緊急性が高い案件については、議論を尽くしながらも迅速な基準開発を心がけたいと思います。

国際的な会計基準の開発への貢献についても、これまで同様、わが国の考えをしっかりと粘り強く主張していきたいと思っております。主張を聞いてもらう前提として、盤石な人間関係の構築が不可欠である中、コロナ禍で疎遠になりつつありますが、めげずに世界の会計関係者とのネットワークの維持・拡大を図っていきたいと考えております。

IFRS財団において国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）の設立が決まり、わが国においてもサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の設立が決まりました。ASBJはIFRS財団に対して、サステナビリティ開示基準の開発のために会計基準の開発がおろそかになってはならない旨主張していますが、同じことはわが国においてもいえます。わが国の会計基準の開発は着実に進めていきたいと考えております。

ASBJは市場関係者の皆様の利害を調整するために存在しており、市場参加者の皆様の参加なしには基準開発はできません。引き続き、ASBJに対するご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。